

プレインターンシップで就業体験

未来はこの手でつくる!!

8月から9月にかけて、福岡県立大学の1年生3人がプレインターンシップ制度を活用して、田川市役所で5日間の就業体験を行いました。

----- 早い段階で社会の仕組みなどを学ぶ -----

インターンシップとは、学生が企業などで実際に就業体験を行うことができる制度のことです。学生にとっては実際に働くことによって仕事に対するイメージを明確にすることができ、自分の適性理解や将来の進路を決定する上での貴重な体験になります。

この制度は、基本的には就職を間近に控えた学生が活用するものです。福岡県立大学では、実社会での体験を早期から経験することで社会人としての心構えなどを学び、就職意欲を確立させることを目的に、1・2年生の学生を対象とした「プレインターンシップ」活動を推奨しています。田川市役所では、8月と9月に3人の学生が就業体験を行いました。

人間社会学部公共社会学科1年

はらだ まりな
原田真梨菜さん
(長崎県雲仙市出身)

●体験先

総合政策課
政策推進係

●体験業務

広報業務(取材・写真撮影)など

●就業体験の感想

取材ではカメラを手にたくさんの笑顔に触れることができました。行政の立場で市民のみなさんの意見を耳にするなど貴重な体験ができたと思います。今回の体験で学んだことや感じたことを今後の大学生活や将来の夢に活かしていきたいです。



人間社会学部社会福祉学科1年

くまべ たかこ
隈部 貴子さん
(北九州市八幡西区出身)

●体験先

文化課(図書館)

●体験業務

図書館でのカウンター業務(資料の貸出・返却・配架)など

●就業体験の感想

幅広い世代の人と接したいと考え、図書館での就業体験を希望しました。覚えることがたくさんあって大変でしたが、うまく作業できたときは達成感がありました。将来は福祉関係の仕事をしたいので、今回の経験をステップにしていきたいです。



人間社会学部公共社会学科1年

まつしま ゆうすけ
松島 佑典さん
(大分県大分市出身)

●体験先

世界記憶遺産推進室

●体験業務

世界記憶遺産を活用した取り組みについての企画立案など

●就業体験の感想

ひとつの企画を立案するためには現地の状況や予算などさまざまな角度から検討する必要があることがわかり、表には出てこない資料づくりの大変さを実感しました。今回の体験を参考に、時間をかけて自分の将来を考えていきたいです。



この記事は、原田さんが実際に取材し、撮影した写真と作成した原稿を基に作成しています。

記事作成に挑戦!!



▲将来への期待を胸に、笑顔でたがたと記念撮影!!

夢の大学生活に向かって一歩前進! 福岡県立大学オープンキャンパス

8月10日、福岡県立大学で、入学希望者などを対象に大学施設を開放し、模擬授業などを通して大学への理解を深めてもらうためのオープンキャンパスが開催されました。

この日は、県内外から1,500人以上が県立大学を訪れ、学内にある講義室や附属研究所を見学したり、模擬授業を受講したりして県立大学の雰囲気を体感していました。

昼休みには田川市マスコットキャラクター「たがたん」が食堂に登場。訪れた人たちは、たがたんを囲みながら思い思いのポーズで記念撮影を行うなど、オープンキャンパスを心から楽しんでいる様子でした。

北九州市から友人3人で訪れたという小村麻里亜さん(戸畑高等学校2年)は、「各学科の説明を聞いて大変参考になりました。ぜひ福岡県立大学を受験したいです」と話しました。